

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 1 回情報教育研究委員会分野別情報教育分科会 議事記録

I. 日 時：平成 27 年 12 月 26 日(土) 11:00 から 13:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：児島主査、阿部仁委員、徐委員、角田委員、阿部栄子委員、大谷委員、
武藤アドバイザー、渡辺アドバイザー (Skype)
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

情報リテラシー分科会では情報リテラシー教育のガイドラインについて、高校教育と変わらないとの意見があったことから、問題発見・解決に向けた学びを組み込み更新をしたことが紹介された。そこで、専門分野の学士力を身につける中で工夫されている内容、分野固有の情報教育について 1 年次のリテラシーで補えない部分に 2~4 年次で付加し、学部学科全体での情報教育の体系化を図りたいと考えている。委員から以下のような意見があった。

- ・ 大学として、基礎ではここまで専門ではどこまで情報活用教育をするのかのマッピングによる共有化を図り、教員による役割分担の仕組みにより質保証ができないか。
- ・ ガイドラインでは、問題発見・解決について学びのモデルを理解させ、情報の働きや役割を理解してもらうことではないか。
- ・ 課題解決型教育は、授業の中にいろいろと入っていると思われる。例えば、患者の問題発見は難しいが課題解決に情報を使うことはルーチンワークとしてになっていることがある。
- ・ Word 等の修得についてのリテラシーは部品であり、新しい価値を組合せ創るための知識・技能・態度を身に付けさせることが必要ではないか。また画像のデジタル処理に関する理解が必要とされるのではないか。データ量、情報通信の仕組み理解、倫理面などが考えられる。
- ・ 近い例としては基礎セミナー街づくり提案コンペの取組みをしている、良いものはほめること、失敗から振り返りをさせることが必要ではないか。
- ・ 専門知をもとにした考え方が求められる、専門知を活かすテーマを取り上げる必要があるのではないか。テーマ設定としては大学入試の小論文課題に近いと思われる。
- ・ 情報スキルの高い学生が多い大学では、リテラシーを 1 つの科目として設定しにくいことがある。その場合、どこかの授業に組み込むこと、カリキュラムマップで複数科目でカバーすることなどが考えられるのではないか。
- ・ 現状は実習の目標が設定できない状況にあり、学生個々の差異に教員がどのように指導するのか負担になっており、評価が難しいのではないか。
- ・ 1 年次授業の例を、文系、理系、医歯薬系のバージョンについて、2, 3 回授業分のイメージとしてそれぞれ箇条書きでの授業内容を整理してはどうか。情報の科目をつくるのではなく、情報教育か、スタディスキルか、初年次教育か、どこに組み込んでいくかは各大学で考えていただくことにしたい。

V. 今後の予定

- ・ 次回の分科会は 2 月 6 日に開催することにし、情報リテラシー教育の授業モデル案を持ちより検討することとしている。